

第16回 双葉町復興推進委員会 議事概要

■日 時 : 平成27年2月18日(水) 午後1時00分～4時00分

■場 所 : 双葉町いわき事務所 2階大会議室

■出席者 : 別紙座席表のとおり

■議事概要

1. 開会

2. 議 事

(1) 双葉町復興推進委員会 最終報告のとりまとめについて

資料2、別冊1、2、3に基づき、事務局より説明後、質疑。

委員の主な意見は以下のとおり。

- 今回の計画については、よくできている。
- 長期ビジョンについては、今後状況が変わってくる。町民が概要版を見て一つひとつ検討するかもしれないが、大事なことは当面の問題である。
- (いわき市勿来酒井地区の)復興公営住宅が平成28年度に完成するという計画であったものが、完成が平成29年度にずれ込んだ理由が分からない。(遅れる理由が)町民に伝わっていないのではないかと。町民にとって長期ビジョンよりこちらの方が重要だ。長期ビジョンを進めるためには、核になるものが必要であり(その核としてのいわき市勿来酒井地区の復興公営住宅を)早く作らなくてはいけないのに、完成が平成29年度になるということで、がっかりしている。長期ビジョンを進める(工程)計画は数日間で進められるものではないが、短期の計画は今すぐに進めるべき内容である。(いわき市勿来酒井地区の復興公営住宅の完成が)平成28年度から平成29年度に変更した理由は何か。
- 双葉郡内で開業していた医師に向けて、医師会から町が復興したら戻ってほしいという依頼があるという話を聞いた。現在、(双葉町出身の)医師はパート(的な勤務形態)として働いているので、町が復興し戻ってほしいという要求があれば戻りたい人はけっこういると考えられる。町民にとっても双葉町で開業していた医師がいたら安心だ。復興まちづくりについて、早急なインフラ整備を含め一日も早く(診療体制の整備等を)実施することが町民に向けてやるべき第一の目的であり、あくまで人の復興が第一であるべきである。
- 概要版について、(町の復興に向けた計画の時期が復興着手期、本格復興期、町再興期と)3つの期間に分かれているが、(その期間の分け方の)説明をうまく入れたほうがよい。ぱっと見たところ将来像は左の絵の通りということだが、これだけだとわかりにくい。

- 概要版について、内容を簡潔にしてもう少し詰めて見やすくしたらよい。委員でもわかりにくいのに、一般の町民、ましてや高齢者にとってはわかりにくいのではないか。すべて将来に関わる大事なことであるが、その中でも特に大事な部分は大きくしてよい。新市街地ゾーンやまちなか再生ゾーン等の説明文をさらに簡潔に記載できないか。
- 概要版を簡潔にまとめ、詳細については「別紙の何ページ参照」などとして、詳細を見たい人が見ることができる形にしたらどうか。
- 概要版の「復興まちづくりイメージ」がパラグラフで囲まれているが、箇条書き形式の文章にした方がよいのではないか。ポイントを絞り表記をしたほうが見やすくなる。
- 文章の区切りとしての句点（「。」）が少ないと長くなって読みづらい。少なくとも2行で1文を終えるくらいがよい。
- 「復興着手期～本格復興期～町再興期」の説明を「復興まちづくりイメージ」の「基本的な考え方」に記載すべきだが、記載すると行が増えることとなる。全体的に概要版は文字が多いと思われるが、消さずに思いを伝えることができないか。
- 概要版だけを町民に配布するのか、本編と概要版をあわせて配布するのか、事務局はどちらを考えているのか。
- （全体的に文字が多すぎるので、表し方の一案であるが）概要版について大きな地図の中に取り組を直接入れ込んだ方がわかりやすいのではないか。
- 概要版について、町民向けの説明会を開くのか。
- 町民へは概要版を配布し、実際に（説明会に）来た人に向けて詳細版として本編を配布するという方法はどうか。
- 長期ビジョンということではあるが、短期としても捉え、町外拠点についても考えをまとめてほしい。復興は双葉町だけでできるものではなく、国、県、各自治体の協力が必要だ。町外拠点づくりについては町民が一番待ち望んでいることなので、早く復興公営住宅の整備に取りかかってほしい。
- 概要版を開いた時にどこから読んだらよいのか戸惑うので、ページ番号を入れるべきだ。
- 概要版の表紙について、（今回の表紙にあるような）ダウンロードしたイラストよりは、心のこもった写真がよい。例えば震災前の双葉町の風景写真など、高齢者が見た際になつかしさを思い出すようなものがよい。
- 資料2の第3部「今後の検討について」において、考え過ぎかもしれないが「復興公営住宅を活かしたコミュニティづくりなどは復興公営住宅

に関心のある町民同士で」議論を進める、ということだが「関心のある町民同士」という言葉にひっかかる。様々な立場の人が討議に参加する必要がある。「関心のある町民同士」という表現ではなく、もっと違った言葉で表現できないか。

- （資料2の第3部「今後の検討について」の「復興公営住宅を活かしたコミュニティづくり」について）「関心がある」「関心がない」という言葉より、「関わる」等の表現にしたらよいのではないか。全く関心がない人はいないのではないか。
- （資料2の第3部「今後の検討について」の「復興公営住宅を活かしたコミュニティづくり」について）注釈として「関心」の具体的な中身のイメージを記載したらよいのではないか。
- 復興公営住宅の入居にあたってのコミュニティ支援に関する取組を（資料2の第1部「町民一人一人の復興に向けて」の）「町民のきずなの維持・発展」の項目に入れてほしい。
- 資料2の17ページで「復興公営住宅の間取りは2LDK、3LDKを基本として」とあるが、3LDKでは家族一緒に生活できない。（長期ビジョン最終報告案の表紙のイラストでは）子供が2人いるが、女の子がいれば1部屋ほしくなるのが実情だ。阪神・淡路大震災から20年経つが、毎日孤独死について報道されている。孤独死を防ぐために4LDKの復興公営住宅を作ってほしい。そうすれば孤独死も減ると考える。県と国へのお願いであり今後の課題だ。
- 阪神・淡路大震災で作られた復興公営住宅は2LDKが多い。3LDKもあるが、3LDKの住まいでは親と同居できない。介護が必要となった高齢者が別の1部屋を占めることも予想される。田舎では2世帯～3世帯住宅で暮らしてきたが、家族がばらばらになると孤独死が増えると思う。部屋数が多くなれば一緒に住みたいという子供世帯も出てくると思われ、一緒に住めば孤独死も減ると考えられる。
- 帰還の時期を示してほしいという町民の声が多かった。長期ビジョン（本編）の18ページに「復興着手期」「本格復興期」「町再興期」の説明を記載しているが、概要版にも掲載することはできるのか。平成30年度の海岸堤防、平成32年度の海岸防災林整備などの記載があればある程度の目安になる。

本日の委員の意見を踏まえて、第1部の「2. 双葉町外拠点」におけるコミュニティ形成及び第3部の一部を修正することとし、修正の確認及び町長への報告は委員長・副委員長へ一任された。概要版の構成については、

委員長・副委員長にて確認の上、町執行部へ一任することとされた。

(2) その他

平成25年10月より平成27年2月まで16回開催してきた双葉町復興推進委員会に対する感想や意見等を述べてもらう。

委員の主な意見は以下のとおり。

- 参加して大変良かった面が多かった。地域住民としての意見を言えるほか、自分の意見が反映される。毎回議論をすることにより素晴らしい計画ができた、担当課の方々に大変感謝している。このような機会が今後あればまた参加したい。
- 経営者という立場で、現状や今後の方向性を出せればよいと思い参加した。双葉町の復興について新しい考え方を取りまとめることは頭の切り替えを含め大変だったが、ようやく形にできたと思う。
- 最終報告の内容については町民から賛否両論の意見はあるだろうが、双葉町は復興するという想いを持って取り組みたい。
- いろいろな意見を聞き、町の方向が見え良い経験ができた。
- 概要版は全体を網羅しており良い。
- 難しい文言による表現は高齢者には理解できないので使わないでほしい。(もっとわかりやすく) 当たり前のことは当たり前のように伝えることが大事で、短文にして高齢者に理解しやすい内容にできればよい。
- 文章の書き始めは一文字空けること。ただし、箇条書きの場合は一文字空けなくてもよい。
- 表紙のイラストについて、良いのはふるさとの写真であるので、工夫をしてほしい。とにかく町民に読んでもらわないと話にならない。読んで魅力ある内容にしないといけない。復興推進課に苦勞をかけるが(修正作業等を) お願いしたい。
- 考えをうまく表現できなかつたが、復興推進委員会に携わり勉強になった。当たり前の言葉で当たり前に伝えることは難しい。いろいろな方の意見を聞いて勉強になった。今後も自分でできることを探したい。
- 子育て中ということで委員になったが、何も役に立たなかつたのではないかと思う。今後の(復興まちづくりの) 検討方法について(双葉町の復興に) 関心がある人どおしが集まり専門部会で検討する方法が提案され(たことは良い方法だと) 安心している。新しい委員の方たちに(次のステージを) 託したい。
- 参加するのが楽しみであった。発言ができず役に立たなかつたと思うが、1年半双葉町の復興まちづくりに関わることが嬉しい。勉強になるこ

ともたくさんあった。

- （自分自身が民間企業に長年いたので思うことだが）今日考えたことは明日すぐにやるべきだ。（町民一人一人の復興のために）早く復興させないといけない。町民にゆとりが出てきた時に町の復興についての考えが生まれる。まず町民一人一人の復興を進めることが使命だと思い参加した。
- 帰還時期については慎重に検討してほしい。原子力災害から5～10年で（安心できる環境になるとは考えにくいと思われるため）町に戻れるという安易な既成事実を作ってほしくない。
- 委員に任命された時に受けようか否か悩んだ。スーツ姿の人に囲まれ何を話したらよいか悩んだこともある。医療分野で推薦されたが果たして役に立ったのか、と思う。委員会ではいろんな面で意見が出されていた。これからの双葉町の発展を祈っている。
- 委員会に1年半休まず参加してきた。被災地の津波被害を受けた住民のことをまず考え、委員と相談しながらやってきた。少しは明るい希望が持てるのではないか、と思う。
- 津波被災地域復興小委員会と本委員会と合わせて21回の会議に出席してきた。人生は出会いであり、避難先でも様々な人に出会った。この委員会でもみなさんと出会い、いろいろと学んだ。双葉町の復興は若い人に頑張ってほしい。復興推進課の努力で大変立派な資料を作りあげることができ感謝する。これだけの資料をまとめるのは大変だったと思う。
- 委員会の発足当初は不確定な要素が多かったので、将来像を含めビジョンを共有するにあたり様々な意見が出て、私自身も学ばせていただいた。（今回提示された）最終報告は、委員の「想い」から作られたことの成果であり、共通の認識だと思う。できるだけ早く町民にも報告書が届き「想い」を共有してほしい。
- 何年かかっても町の将来像の実現に向け早期の努力が必要だ。委員会では町長をはじめ担当課長を含め全員が参加し、このような形で実施できたことは素晴らしいと思う。町の役場の中で共通の認識を持ちスピード感をもって進めるためにも良いことだ。委員長・副委員長のとりまとめにも感謝する。
- 津波被災地域復興小委員会と復興推進委員会に参加してきた。土木工学科出身であるので工学的な立場から、災害の復旧については助言できるが、今回の災害は世界に例がない。チェルノブイリの場合は、帰還はせずに（事故が起こった場所は）放棄せざるを得なかった。（それと比べて今回の長期ビジョンでも示されたが）双葉町の場合は復興することを

夢に持って町の再興まで図らなければいけない。

- 土木工学の面では「安全」を第一に考えるが、町の復興は「安心」が必要であり、それを作るのは皆さんである。復興の手順と希望を実現に変える足掛かりは、町長の話の中で将来が見える形で示されたと思う。
- 活発な意見の中では、委員が置かれている厳しい現状から、時にはきつい言葉もあったが、事務局が真摯に受け止め取り組んだことで良い計画ができた。みなさんのおかげで将来双葉町が復興する姿が目に見えよう。
- 住民は行政に常に発信しないとイケないし、行政はそれが見える形で返す、そういうキャッチボールをしないと、計画が実現できない。委員と行政が連携をして作る必要がある。今後安心を含めた取組が成功できるように祈っている。
- 今後双葉町の復興復旧にあたり、シナリオを現実のステージに持っていきたい。今後の第二次復興復旧（に向けて）、さらなる発展を念じている。今後も双葉町一丸となって推進にあたっていききたい。
- 委員会に参加していろいろな意見を伺い、有意義な時間を過ごせたことが良かった。震災後は目の前のことだけで（精一杯で）双葉町のことを忘れていたが、委員会に参加したことで改めて双葉町を見直せたことは、大きなことだった。
- 一時帰宅で帰るたびに家や町が荒れていく姿を見て、このまま町がなくなるのではないかと思っていた。しかし将来双葉町が生き返るということを報告書の中で示すことができたことによって希望を持つことができた。委員会に参加できて、双葉町が生まれ変われることを感じられたことだけでも、感謝している。
- 震災後県内外に町民が広く避難している。今までは小さな双葉町だけを守っていけばよかったが、双葉町が大きく広がったともいえる。これからは町民も双葉町について広い視野が求められると思う。長期ビジョンがこのような形でまとまり、町長をはじめ行政にバトンタッチをするが、これからも（復興まちづくりのより一層の推進を）お願いしたい。
- 委員の熱意と積極的な意見交換の中で良い成果があがった。これで町民のみなさんも希望が持てる計画、ビジョンができあがったのではないか。（長期ビジョンなどを議論するにあたり）ワークショップが役立った。今回の会議で復興推進委員会は終了するが、復興への道のりはこれからも続く。委員はこの経験を活かして復興に進んでもらいたい。

3. 町長あいさつ

4. 閉会

以上

第16回双葉町復興推進委員会座席表

(敬称略)

高野	間野	伊藤
陽子	博	哲雄

1 日時 平成27年2月18日(水)
13:00~16:00
2 場所 双葉町いわき事務所 2階大会議室

課長 駒田 義誌	事務局 伊澤 史朗	町長 伊澤 史朗	齊藤 六郎
課長補佐 細澤 界	(復興推進課) 副町長 半澤 浩司	副町長 半澤 浩司	菅本 洋
主任主査 橋本 靖治	教育長 半谷 淳	教育長 半谷 淳	
副主査 山下 明弘	事務局 武内 裕美	総括参事 武内 裕美	大橋 正子
主事 西牧 孝幸	(復興推進課) 総務課長 船来 丈夫	総務課長 船来 丈夫	田中 勝弘
支援員 米山 治介	秘書広報課長 平岩 邦弘	秘書広報課長 平岩 邦弘	
支援員 山中 啓稔	事務局 山本 一弥	税務課長 山本 一弥	岡村 隆夫
支援員 由波 大樹	(復興推進課) 産業建設課長 猪狩 浩	産業建設課長 猪狩 浩	小畑 明美
支援員 小山 勲	住民生活課長 松本 信英	住民生活課長 松本 信英	
会計管理者 半谷 安子	生活支援課長 志賀 睦	生活支援課長 志賀 睦	中谷 博子
	健康福祉課 課長補佐 渡辺 英之	健康福祉課 課長補佐 渡辺 英之	山本 真理子
	教育総務課長 今泉 祐一	教育総務課長 今泉 祐一	

丹波 史紀	復興庁 八木 俊樹 企画官
長林 久夫	復興庁 石川 義浩 参事官補佐
岩本 千夏	復興庁 福島復興局 高橋 直人 次長
木藤 喜幸	復興庁 福島復興局 須田 亨 参事官補佐
相楽 比呂紀	福島復興局 いわき支所 林 文之 次長
石田 恵美	福島復興局 いわき支所 桃原 伸明 参事官補佐
	環境省 福島環境再生事務所 谷岡 淳也 専門官
岡田 常雄	福島県 避難地域復興課 佐藤 庄一 総括主幹兼副課長
	福島県 避難地域復興課 駐在員 熊坂 雅彦 副課長
	福島県 避難地域復興課 根本 朝彦 主査